

日時: 2015年6月13日(土) 10:00-12:00

場所: 横浜情報文化センター7階大会議室

◆ 主催: 防災塾・だるま

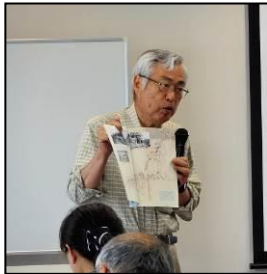
司会: 山田美智子

記録: 紅林敏行

◆ 談義の会参加者: 会員 22名(含む講師1名)

一般 19名(含む講師2名)

計 41名 (敬称略)



井上さん(講師)

池田副塾長:

関東大震災からまだまだ学べることがある。

井上さん:土砂災害に着目して過去の震災を調査している。

関東地震では、神奈川県では多くの土砂災害被害が発生。

横浜のまち歩きは2回目。午後は、ポール氏の逃避行のコースを辿り、横浜の地形状況と土砂災害の関連を調査します。



池田さん(副塾長)

I. テーマ: 『大正関東地震(1923年)による神奈川県内の土砂災害』

報告: 井上 公夫氏 (一般財団法人砂防70ソティア整備推進機構)

関東地震は海溝型大型大規模地震と内陸型直下型地震の両方の性格をもっている。震源域は神奈川県から千葉県南部であったため、神奈川県内の被害は極めて大きい。(貴重な図、写真で分かり易く解説)



関東地震による神奈川県内の土砂災害は101箇所発生。

- 死者 919 人
- 行方不明者 139 人
- 被災戸数 467 戸
- 河道閉塞 5

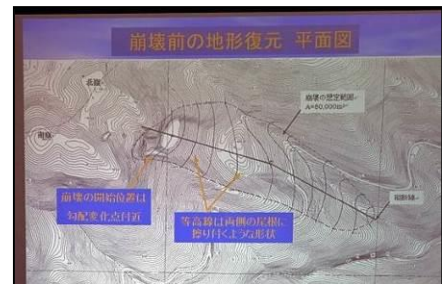


写真:井上先生の講演の画像から

左『関東地震による林野被害区域「山崩れ地帯」概況図(内務省社会局、1926)と土砂災害地点167箇所(井上2013)』(「びやく」は12箇所)
右『大洞の大規模深層崩壊(崩壊前の地形復元 平面図)』(崩壊土砂の半分は残って、半分は土石流となって海に)

●神奈川県内関東地震直後(9/1)、地震後降雨時(9/15頃)に発生した土砂災害

系魚川流域(根府川集落)の土砂災害(系魚川上流・大洞の大規模深層崩壊)、山北町玄倉恩賜林大崩壊、秦野市震生湖(天然ダム)、横須賀市見晴山崩壊/浦賀町愛宕山崩壊等を図、写真を示して解説。

(根府川集落の被害写真等を見て2014/08の広島県の土砂災害を思い出した)



●横浜中心部の震災直後・・・貴重な図、写真を示して解説。

沖積低地に発達していた横浜市街地は地震で倒壊すると共に、その後の延焼でほとんど焼失。台地縁辺部の急崖部では多数の崖崩れ・崩壊が発生。(土砂災害27箇所、死者68人行方不明者50人以上)



●伊豆大島元町の災害:忘れていた「びやく」

柳田国男編伊豆大島方言集・・・(土地の歴史を知ることが重要)

びやく:崖の斜面、びやくがく:崖が崩れる、

びやくが 叔:山ずりして土地が押し出す

写真:上『ポール氏の逃避行ルート他(井上先生の講演の画像から)』
下『当日の講義風景』

II.テーマ：『よこはま防災まち歩き』

～貿易商・ポール氏の避難ルートをたどる～

報告：相原 延光氏（関東学院中高等学校/神奈川総合高校地学講師）



相原さん(講師)

相原さん:

歴史を学ぶことは災害想定と復興に役立つ。現地見学で皆さんと一緒に確かめましょう！

山田さん:

横浜開港資料館にて企画展示「異国の面影」が7/12まで開催中。初回公開する「横浜外国人居留地火災保険地図」では同時の街並みを知ることが出来ます。今日の現地見学の参考になります。



山田さん(司会)

午後のまち歩きで確かめることを、図、写真を示しながら分かり易く解説。

●「横浜の地域特性」（補足；津波の高さは50から80cm程度）

- 江戸時代後期の新田開発と開港
⇒三角州による軟弱地盤での建物倒壊率が高い
- 明治近代建築（耐火いかに造）の崩壊（鉄筋コンクリート建築/消防の近代化の認識を高めた）
- 地盤特性（液状化・地割れ）、土砂災害（崖崩れ）
⇒高台では、谷埋めした地盤が緩い状態で斜面崩壊
- 火災発生と火災旋風/水道管破裂による浸水
⇒台風または副低気圧の通過による強風の起こした気象災害

●「気象災害」

- 9/1台風が本州縦断中。南西風は烈風（風速28.5～326m/s）に達し、大規模な火災による旋風が起きた。
- 横浜では9/1:13時から20時40分までの間に29個の旋風があった。

●「土砂災害」（O.M.ポール氏の震災記録「古き横浜の壊滅」）

- 第2代横浜駅（今の桜木町駅）の倒壊
- 太田屋新田埋立地：液状化と家屋倒壊同時発生
- 埋立地では地割れが発生 ・浅間山の崖崩れ（元町百段が倒壊等）
- ポール氏自宅付近68番街の斜面崩壊 ・大棧橋の崩壊（液状化）

●震災前後の国際協力（1866.1.26に起きた大火災「豚屋火事」の教訓）

- 関内地区の復興：『災害に強い近代化都市づくり』
外国人の消防指導による延焼を少なくする工夫（減災）
⇒道路幅12m、植樹帯9mの「日本大通り」。

いかに石造りの洋館に建替え。

湿地を埋め立て、跡地に花園公園（現横浜公園）。

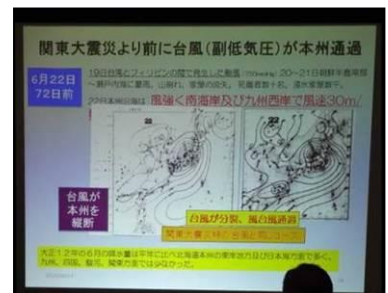


写真:相原さんの講演会資料から抜粋。
上から順に、
『開港当時(1854年頃)の横浜村の絵図』、
『関東大震災より前に台風(副低気圧)が本州通過』
『横浜火災図(部分)』(火元、火災旋風を朱書)

：<<参加者の感想(アンケートから抜粋)>>

- 過去の事ではなく、現在に繋がる歴史を学ぶことが出来て興味深かったです。
- 横浜の地形、地質的な生い立ちが良く理解できてよかった。
- 添付の書物のリストに驚いた。こんなに災害をテーマとした本があったとは知らなかった。
- 講義と町歩きをドッキングされたことに大変意義を感じます。